第三章“広域連携”および“官民連携”に関する現況整理と今後の取り組みについて

本章のねらい

これまで、第一章・第二章を通じて、手賀沼・手賀川地域に関連する計画や事業、施設、イベントなどの現状について、マクロ的・ミクロ的視点から記載しました。それによると、現時点で、手賀沼・手賀川地域では、第二章で示したＡ～Ｆの６つのエリアを中心に、ＴＥＧＡ報告書で掲げたさまざまな想定事業やリーディングプロジェクトが、各自治体の事業として、独自に展開されていることがわかります。

各エリアで取り組みが進展することで、手賀沼・手賀川地域の魅力が高まっていますが、エリアごとの取り組みを進めるだけでは、手賀沼・手賀川地域全体のブランド化はしにくく、個々の事業の発展性や集客力にも限界があると想定されます。

一方で、これまで手賀沼花火大会や手賀沼エコマラソン、手賀沼トライアスロン大会など、市域を超えて水辺を活用する多様なイベントが継続的に開催されていますが、連携の範囲は個々のイベントの実施に限定されており、広域連携の効果は他の事業に充分に波及していない状況です。

こうした現況を踏まえると、各自治体が各エリアで取り組む独自の施策以外に“広域連携”や“官民連携”の視点をより意識した取り組みを進め、互いの相乗効果により地域全体の活性化を図っていくことの重要性が浮かび上がってきます。

特に最近では、複数のエリア間でイベントの連携を模索する動きや、レンタサイクルや遊覧船を活用して広域での周遊を促そうとする取り組みも始まろうとしており、今まで以上に広域連携の必要性が増しています。また、柏市の「手賀沼アグリビジネスパーク事業」、印西市の「ぶらり川めぐり事業」、我孫子市の「水の館内の農産物直売所やレストランの運営」のように、民間事業者が担い手となる取り組みも展開されているため、自治体間だけでなく、自治体と民間事業者との連携、あるいは民間事業者同士の連携も不可欠になってきています。

このような状況から、本章では、ＴＥＧＡ報告書で設定した想定事業やリーディングプロジェクトのうち、広域連携や官民連携による取り組みが求められ、かつ現在、取り組みに向けた動きが出始めているものや今後、手賀沼・手賀川地域全体の活性化に必要と考えられるものを取り上げ、それらの実施に向けた方策等を記載します。

具体的には、次頁の５項目の取り組みについて、それぞれ現況と実現に向けた課題を整理した上で、課題解決に向けた今後の方策を記載し、将来の事業展開に向けたアクションの端緒とします。

これらの５項目については、平成２９年度から本格的な検討を進め、平成３３年度までの５年間を目途に具体的な施策の実施手法の確立を目指します。なお、今後、関連す

る自治体間での協議が進み、具体的に実施の方策が定まったものについては、順次、施策の実現を図っていきます。

〈本章で扱う５つの取り組み項目〉

Ⅰ．交流拠点間の“つながり”づくりに向けた取り組み

Ⅱ．地域情報の収集・整理・分析・発信

Ⅲ．案内サイン・誘導サインの整備

Ⅳ．手賀沼・手賀川を周回するサイクリングロード整備の検討

Ⅴ．水辺のオープンカフェの検討

Ⅰ．交流拠点間の“つながり”づくりに向けた取り組み

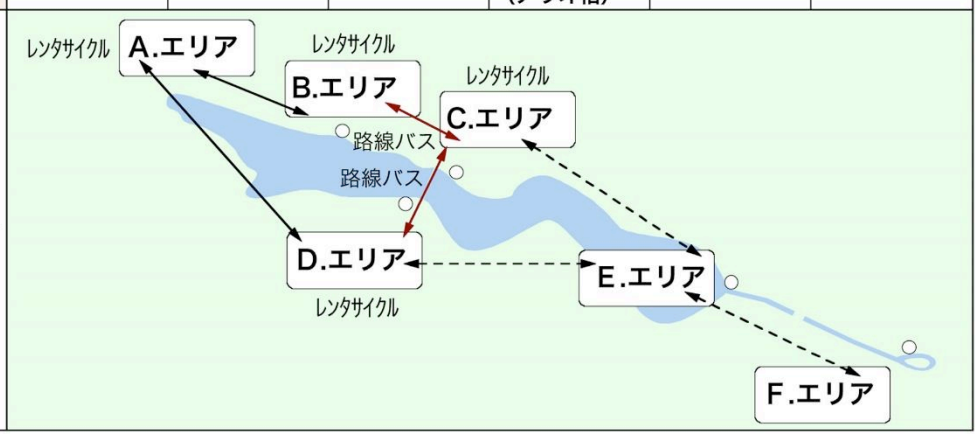
手賀沼・手賀川地域の各エリアでは、交流拠点を中心に魅力づくりの事業がそれぞれ展開されています。今後、手賀沼・手賀川地域全体の活性化を図っていくためには、これらの交流拠点間のつながりづくりを進めていく必要があります。イベントなどのソフト事業での連携のほか、レンタサイクルや遊覧船を活用するなどして、訪れた人にエリア間の周遊を促すような工夫をしていきます。

１．現況

1-1．交流拠点の運営の現状

Ａ～Ｆの６エリアでは現在、それぞれの地域資源を活かした交流拠点づくりが進められています。そして、各エリアの交流拠点が本格的に運営を開始したことで、それぞれが持つ機能が明確になってきています。

下表では、各交流拠点が持つ主な機能をまとめました。

エリア	A	B	C	D	E	F
主な交流拠点	柏ふるさと公園・北柏ふるさと公園	手賀沼公園	手賀沼親水広場（水の館）	道の駅しょうなん	手賀沼フィッシングセンター	川の停車場
公園・広場	○	○	○			
農産物直売所			○	○		△(イベント時のみ)
飲食施設		△（周辺に民間の飲食店あり）	○	○	○（カフェ、バーベキュー場）	
その他の機能	ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ	ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ、桟橋、ﾐﾆSL、親水護岸、貸ボート乗場など	ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ、桟橋	ﾚﾝﾀｻｲｸﾙ、桟橋、貸ボート乗場	桟橋、釣堀、ドッグラン、農業体験、ｶﾇｰ体験事業など	桟橋
周辺にある施設	市民文化会館、北千葉導水ビジターセンター	生涯学習センター、釣堀	鳥の博物館、古墳などの史跡、釣堀	温泉施設、大規模ショッピングセンター（アリオ柏）		中央公民館
エリア間のアクセス現況						

表・図：エリア別・各交流拠点に設けられた主な機能

1-2. 交流拠点をつなぐ二次交通の現状

手賀沼・手賀川地域では、交流拠点をつなぐ二次交通として、ＥエリアとＦエリアを除いて、レンタサイクルステーションが設けられ、利用者がレンタル自転車を借りた場所以外でも返せる（＝乗り捨て）サービスも行われています。平成 27・28 年度には、柏市が、ぐるっと手賀沼めぐり事業として、ＤエリアとＥエリアを遊覧船・シャトルバスで結ぶ実証実験を行いました。

現在、柏市では、この関連事業となる道の駅しょうなんと手賀沼フィッシングセンターにおける桟橋設置の計画を持っており、小型遊覧船による舟運事業を検討しています。

我孫子市では、平成１９年度に手賀沼公園～手賀沼親水広場～手賀沼フィッシングセンター間を結ぶ、遊覧船の定期運行を行いましたが、乗船率の問題で継続運行には至りませんでした。

一方、手賀川では、Ｆエリアで小型船による遊覧船事業が行われていますが、現況、他エリアとの間をつなぐ二次交通としてではなく、手賀川の景観観光を目的とした遊覧船として活用されています。

２．取り組み課題

2-1．現況の課題

① 交流拠点間のつながりづくりに関する現況の課題

- 市域を超えた交流拠点間での連携の例としては、レンタサイクルや TEGA スタンプラリーなどがありますが、イベント等での連携はまだ進んでいません。
- 多くの交流拠点で農と食という共通テーマを扱っていながら、現況ではテーマの住み分けやイベントを介した連携が図られていません。また、各交流拠点の集客予想の総合的な分析や観光客誘導の戦略について、情報を各市間で共有する場がありません。

②二次交通に関する現況の課題

- レンタサイクルは、ＥエリアやＦエリアにはステーションが設置されておらず、今後の展開が検討課題です。
- 平成 27・28 年度に行われた柏市での２点間の遊覧船運行は実証実験であるため、法制度上、同一航路での継続的な実施はできません。このため新たな取り組みを検討する必要があります。
- 平成 19 年度の我孫子市の事例では乗船率が約２０%、平成 28 年度の柏市の事例も約 20%に留まっており、利用者増の方策が課題です。

2-2.今後の課題

① 交流拠点間の“つながり”づくりに関する今後の課題

・今後、各エリアの交流拠点における取り組みが本格化するなかで、それぞれの特徴と課題が明確化してくると考えられます。それぞれの交流拠点では、独自の魅力を高めるとともに、交流拠点間の周遊を促し、相互に機能を補完し合い、相乗効果を生むことで、手賀沼・手賀川地域全体の活性化が図られるようにしていく必要があります。

・各交流拠点で行っている取り組みをつなげ、地域全体で多様なサービスを提供できるようにして、手賀沼・手賀川の一体的なブランド化を図っていく必要があります。

・農産物直売所機能を持つ交流拠点では、自市内で提供できない農産物を他市から融通できる仕組みづくり等が考えられます。

・このような連携を進めるためには、各交流拠点の運営者が日常的に相互の情報を共有するなど、円滑な関係性をつくることが必要となります。

②二次交通に関する今後の課題

・２市以上を結ぶ舟運を検討する場合には、手賀沼・手賀川地域全体を見据え、どのエリアのどのような地域資源（またはイベントや提供できるサービス）を組み合わせて来訪者に周遊してもらうのか、具体的イメージを描き、関係市間で共有しておく必要があります。

・具体的な運行を実現するためには、法規制上の要件を満たすことが求められ、桟橋等のハード整備も検討する必要があります。

・同時に、採算が成り立つ事業内容の精査や運行に携わる民間事業者との調整、関連事業とのリンク、財源の確保などについても検討を深めていく必要があります。

３．課題解決に向けた今後の方策

①交流拠点間のつながりづくりに関する取り組み

各交流拠点間の情報共有やイベント等での連携が図られるように、すでに組織化している柏市の手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会と、我孫子市や印西市および各交流拠点の運営に携わる民間事業者とが、日常的に相互の情報をやり取りし、必要に応じて連携・協力できる関係性を構築していきます。

② 二次交通に関する取り組み

・柏市が検討中の小型遊覧船による舟運の具体策については今後、柏市と我孫子市の関係部署および河川管理者である千葉県も交え、検討をしていきます。

・印西市の川の停車場や手賀沼フィッシングセンターのように二次交通が確立していないエリア間の連携については、実現可能性や採算性等もふまえた上で、検討していきます。

Ⅱ．地域情報の収集・整理・分析・発信

手賀沼・手賀川地域の魅力を、地域内・外に広くアピールしていくためには、各市が個別に情報発信しているだけでは限界があり、手賀沼・手賀川地域を一体的に捉えたイメージ戦略を定めた上で、広域連携により PR に取り組むことが効果的と考えられます。そのため、今後は手賀沼・手賀川地域全体を総合的にアピールするための情報発信のあり方を協議・調整していきます。

１．現況

1-1．地域情報の発信に関する現況

現在、各市の観光案内は、インフォメーションセンターや観光案内所等で行われています。こうした施設では、基本的に各市の情報発信が中心となっていますが、一部、他市のイベント情報を扱うコーナーもあります。また、アリオ柏内には柏市ＰＲコーナーがあるほか、印西市・我孫子市のパンフレットを置く情報スペースが設けられています。

■3 市の情報案内スペース

○柏市：　・かしわインフォメーションセンター（ファミリかしわ内）
・柏市 PR コーナー（アリオ柏内／下写真左）
・インフォメーションギャラリー（道の駅しょうなん内／下写真右）

○我孫子市：・我孫子駅前インフォメーションセンター（アビシルベ／下写真左）
・水の館（手賀沼ステーション、手賀沼学習コーナー等／下写真中）

○印西市：　・印西市観光情報館（イオンモール千葉ニュータウン内／下写真右）

１-２．地域情報の収集・整理・分析に関する現況

各市、各観光施設に関する主に集客情報の収集・整理・分析については、各市の観光部局や観光協会等において、主要観光施設の入込客数を把握しています。また、各市のシティーセールス部局では、観光資源等の地域の魅力を把握しています。

２．地域情報の収集・整理・分析・発信に関する現況の課題

【現況の課題】

〈発信面の課題〉

・柏市、我孫子市、印西市間で手賀沼・手賀川地域全体をどうアピールしていくか、イメージ戦略や情報発信の方向性が明確になっておらず、市ごとに情報発信されています。

・同様に他の施設も手賀沼・手賀川地域の総合的な情報発信の場とはなっておらず、インターネット上で総合情報を発信する場も設けられていません。

〈収集・整理・分析面の課題〉

・観光地としての顧客情報を含む市場調査等、手賀沼・手賀川地域に集客するための詳細な分析は、少なくとも各市では行われていません。

【今後の課題】

・情報発信面では、PR パンフレットは、各市単独で発行される上、各市内でも所管課が個々に施設情報を発信するケースが多くみられます。このことから PR 資料数が過剰気味で、観光客に分かりにくい状況を生み出していることが懸念されます。

→　情報媒体の整理・統合

・現況、自治体が作成するパンフレットやロードマップ等は、広く頒布することを目的としていることから、無償で配布されています。より多くの人の手に渡る目的は達成されているものの、無償のため安易に扱われ、充分に活用されないままになっている可能性も推察されます。

・手賀沼・手賀川地域を訪れる人にリピーターとなってもらうためには、広く頒布することを目的とするものとは別に、市販の情報誌レベルにデザインや情報量を高め、有償で頒布することも検討する必要があります。

→　情報媒体の有償化・ブランド化

３．課題解決に向けた今後の方策

現在、手賀沼・手賀川地域に関する情報は、各市個々に発信していますが、今後は手賀沼・手賀川地域全体を総合的にアピールするための情報発信のあり方を本協議会構成団体（もしくは観光協会や民間事業者も含めて）で協議していきます。

この中では、手賀沼・手賀川地域全体をイメージアップする情報発信の方向性や各団体間の協力体制についても協議します。また、地域全体の情報発信の核となる拠点には、今後予測される集客人口から考えて、Ｄエリアの道の駅しょうなんとＣエリアの水の館が想定されます。今後は、これらの拠点を中心に各施設で情報発信を行いながら、本協議会構成団体間で手賀沼・手賀川地域全体をアピールするために、有効な情報発信のあり方を整理していきます。

同時に、各市の観光担当部署や各施設の運営事業者間でも、相互に情報共有して情報を発信できる仕組みづくりを検討していき、合意が得られたものから進めていきます。あわせて、パンフレット等の情報媒体の整理・統合、有償化等のブランディングについても検討し、地域全体のイメージ展開・ブランド化につなげていきます。

（３）情報発信機能

①情報発信・受付機能

- 管理事務機能（インサイド）と情報発信・受付機能（アウトサイド）の分離と強化を行う。
- 周辺の自然、歴史、文化資源イベントや農業体験等の情報を効果的に発信する。
- 農業体験の受付窓口、バス回数券、遊覧船のチケット販売などの受付業務を行う。
- 既存の事務室を情報発信機能側に大きく開口部を設け、周辺の地域情報のインフォメーション、各種問い合わせに対応するコンシェルジェ機能を充実させる。

情報発信（ICT）のイメージ

受付窓口・コンシェルジュ機能のイメージ

図：道の駅しょうなんにおける再整備後の情報発信機能イメージ

（再整備基本計画要項より抜粋）

Ⅲ．案内サイン・誘導サインの整備

手賀沼・手賀川周辺に、わかりやすい案内サイン・誘導サインを整備することで、主要駅から手賀沼・手賀川を訪れる人、あるいはエリア間を行き来する人の誰もが、行きたいところまでストレスなくたどり着けることができます。

特に、統一的なデザインで案内サイン・誘導サインの整備ができれば、市境を超えても利用者にとってわかりやすく、同時に手賀沼・手賀川地域の一体感を表現できることから、魅力向上につながると思われます。このため、案内サイン・誘導サインの整備に関する取り組みを検討していきます。

１．現況

現在、手賀沼・手賀川地域では、柏市、我孫子市、印西市、千葉県、国土交通省が、所管施設に、それぞれ独自に案内サイン、誘導サインを設置しています。

一方で、各駅や周辺道路などから手賀沼・手賀川へと続く道などは、サインが未整備の部分も多く、訪れる人を迎え入れるような雰囲気を演出できていません。さらに、既存の施設や道路に対する案内サイン、誘導サインの整備は、新たに事業化する必要があるため、その改善には長い期間を要します。

２．案内サイン・誘導サインの整備に関する課題

2-1．現況の課題

- 現況は、柏市、我孫子市、印西市、千葉県、国土交通省が、それぞれの所管施設に案内サイン・誘導サインを独自に設置していますが、掲載情報は互いにリンクしておらず、デザインもバラバラな状態です。
- 柏市側の自転車歩行者道や我孫子市側の遊歩道でも距離表示が設置されていますが、表示の内容や基点、デザインに違いがあり、利用者にとってわかりにくい状況です。

2-2．今後の課題

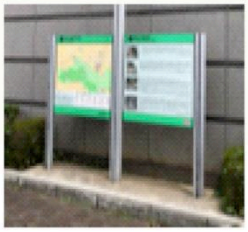
- 各構成団体により、公共サインのデザイン基準が異なるため、手賀沼・手賀川地域オリジナルのデザイン基準を直ちに設定することは難しい状況です。
- 案内サイン等の設置は、構成団体ごとに実施することとなり、同じ自治体内でも、施設ごとにサインの設置目的や掲載情報が異なるため、完全に統一的なサインとすることは困難です。
- 手賀沼・手賀川地域に設置するサインのデザインを統一的なものとしていくために

は、サインの設置範囲や種類等について、設置方針の概要を定めておく必要があります。ただし、設置方針は、緩やかなものとした上で、サイン更新のシステムに関しても明確化したものでなければ、実現可能性と変化への対応力がなくなってしまいます。

３．課題解決に向けた今後の方策

統一的サインの設置は、手賀沼・手賀川地域を一体的な集客装置と捉えたマーケティング戦略のひとつとも考えられ、実現には３市及び国・県の広域連携が必要となります。効果としては、手賀沼・手賀川地域を訪れる人にとって利便性が向上すると同時に、デザイン的な一体感・ブランド感も高められることが挙げられます。

このため、①既設のサインの整備状況（設置場所、目的、掲載情報の内容、所管など）や②各構成団体がもつサイン整備方針やデザイン基準などの基礎的情報を収集し、共有していきます。その上で対象となるサインの設置範囲や種類等を設定し、手賀沼・手賀川地域でのサイン整備の方向性を議論していきます。



■参考：印西市の観光案内サイン

印西市では、写真のような周辺案内図や誘導サインを整備しています。周辺案内図には、付近にある史跡等の写真と解説文も掲載しているほか、周遊のルートや距離も図示されています。

今後、手賀沼・手賀川地域の案内サインを検討する際の参考事例になると考えられます。

Ⅳ．手賀沼・手賀川を周回するサイクリングロード整備の検討

近年、全国的にサイクリング人口が拡大するなか、手賀沼・手賀川地域でもサイクリングを楽しむ人が増えています。こうしたことから、手賀沼・手賀川地域でもサイクリング環境の整備を進め、周辺一帯を快適に周回できるようにすることで、交流人口の拡大が期待できます。

１．現況

手賀沼と手賀川の南岸（柏市～印西市）には、千葉県が整備した手賀沼サイクリングロード（県道我孫子流山自転車道線）がある一方で、手賀沼以東や手賀沼ふれあいラインでは、道路として十分な整備がされていない区間や、現在道路整備事業が進められている区間があるとともに、かなりの交通量がある箇所もあることから、安全面などでも検討すべき課題があります。

２．周回サイクリングロードの整備に関する課題

・実現可能なサイクリングロードの検討（設置場所・路線、仕様、建設費用などの試算を含めて）および取り組みを進める上での問題点の整理（実施主体、法令・土地利用上の制限、安全対策、財政負担など）が必要となります。

・事業化に向けた優先順位を上げるためには、設置路線周辺の利用者のニーズも含め、整備の重要性を明確化する必要があります。例えば、手賀沼公園～柏ふるさと公園間のサイクリングロードの場合、我孫子市の手賀沼観光施設誘導方針により、我孫子新田地区ににぎわいが生まれれば、沿道の安全性や利用者のニーズに対する課題解決の機運が高まると同時に、北柏の市街化エリアとのつながりも期待できます。

３．課題解決に向けた今後の方策

手賀沼・手賀川周辺の道路や遊歩道等の整備には、各市と千葉県との広域連携が欠かせません。特に、手賀沼公園から柏ふるさと公園に至る自転車通行環境の整備に関しては、まず、協議会および関係自治体にて連携の方向性を協議し、今後、設置路線周辺の利用者ニーズも含めた整備の重要性を明確にするとともに、実現可能なサイクリングロードの具体的な検討を行い、事業展開イメージを明確化していきます。

Ⅴ．水辺のオープンカフェの検討

近年、大都市圏を中心に河川区域や公園などにカフェを設ける事例が増えています。我孫子市が平成 24 年度に実施した観光に関するアンケート調査でも、手賀沼周辺に飲食施設の設置を求める意見が多く、潜在的なニーズはあると推察されます。

すでに、C・D・E の３つのエリアには、レストランやカフェなどの飲食施設がありますが、他のエリアにも飲食施設が立地すれば、手賀沼・手賀川地域を訪れた人が楽しく過ごせる空間が増え、魅力の向上につながることから、水辺のオープンカフェなどについて検討していきます。

１．現況

平成 29 年度、Cエリアの水の館とDエリアの道の駅しょうなんには、それぞれ近隣の農産物を食材とするレストランが開店しました。いずれも水辺に近く、店外（屋外）にはオープンデッキも設けられています。また、Eエリアの手賀沼フィッシングセンターには、屋外バーベキュー場にコンテナ方式のカフェと、漁協のレストランを改装した屋内のカフェが民間事業者により運営されています。

Aエリアでは、北柏周辺地区都市利便増進協定に基づく利便増進施設設置事業として、平成 29 年度以降に、北柏ふるさと公園内にユニットハウスまたはトレーラーハウス等による食事・購買施設を設置する予定です。

また、B エリアでは、我孫子新田地区を対象に、手賀沼観光施設誘導方針を策定し、民間事業者が運営する「手賀沼そのものを活用する施設（例：貸しボート場など）」や「観光客をもてなすための施設（例：飲食店など）」を誘導していくこととしています。

２．水辺のオープンカフェを展開する上での課題

・手賀沼・手賀川地域のうち、今後新たに水辺にカフェを展開しうる想定箇所としては、Bエリアの手賀沼公園内やその周辺の我孫子新田地区があります。また、A エリアと同様の移動販売であれば、C エリアの高野山ふれあい市民農園跡地でも展開が可能と考えます。

・このうち、手賀沼公園は都市公園内、高野山ふるさと市民農園跡地は市街化調整区域内であり、土地利用に関する法規制上の問題や上下水道などのインフラ整備の課題があります。基本的に民間事業者が単独で事業展開することは困難な場所であり、事前に自治体側のプランニングが必要となりますが、これまで具体的な検討がされていません。

３．課題解決に向けた今後の方策

・カフェを設置する場所により土地利用に関する法規制の違いやインフラ整備の状況が異なるため、自治体がプランニングする際には、場所ごとにシミュレーションす

る必要があります。

- 新たな水辺のカフェの取り組みとしては、A．ふるさと公園エリアで、ユニットハウスまたはトレーラーハウス等による食事・購買施設の設置事業が計画されています。これにより、公園利用者に加え、付近の医療施設の就労者等もターゲットとして、集客力を強化し、これまで以上に公園空間の価値を高めます。
- また、Bエリアの我孫子新田地区では、手賀沼観光施設誘導方針と我孫子新田地区地区計画及び運用基準に基づき、観光施設の誘導を図っていきます。
- Bエリアの手賀沼公園内やCエリアの高野山ふれあい市民農園跡地では、Aエリアの取り組みも参考にしつつ、検討を行います。
- 手賀沼公園内のシミュレーションでは、将来的な社会実験として展開することも視野に入れ、具体的に設置する施設を想定した上で、必要なインフラや施設運営手法などについて基礎的な研究を行うものとします。

図：手賀沼公園における水辺のカフェのシミュレーションエリア

〈先行事例の参照〉CASE1：大阪市 中之島での河川区域内の利活用

大阪中之島事例

全体俯瞰　仮設の夜間営業から、照明の取り回しに腐心がみられる。

期間限定のガーデンテラス、夜間、アルコールにも対応

同一エリア内の常設レストラン

トイレ（仮設簡易トイレを活用した事例）

分別ゴミのステーション

調理機器／暖房機器など

キッチンカーなどもうまく組み合わせられている。

電源設置状況

案内看板にも集客の工夫がみられる